

ヒット歌謡曲歌詞の語彙分析 ——三〇年間の持続と変化——

柏 葉 智 子

研究協力 坂 本 麻希子
倉 持 智 美

〇 はじめに

私たちが普段何気なく耳にする歌謡曲にも、ヒットするには何か理由があるのだろうか。その共通点や相違点を探るために、歌詞の使用語彙から、使用語彙の数と人称詞の使われ方について、考察していこうと思う。

一 目的

歌謡曲における使用語彙から、使用語彙の数を調べる。また、人称詞の使われ方についても調べる。

二 方法

- ① 一九七三・一九八三・一九九三・二〇〇三年の年間セールスランキング（オリコン調べ）を使い、各年上位五位までを調べる。
- ② それぞれの歌詞を調べる。
- ③ ②で調べた歌詞を文節に区切り、さらに単語単位に区切る。
- ④ 単語（自立語）を、体（名詞・代名詞）・用（動詞）・相（形容詞・

形容動詞・副詞・連体詞）・その他の四つに分類し、曲ごとにそれぞれの数を数える。

- ⑤ 調べた全ての曲における単語の使用数をまとめる。
- ⑥ それぞれの曲に使われている人称詞について考察する。

三 対象

今回、研究・考察するにあたって使用した歌謡曲は次の通りである。

（一九七三年）

一位 女のみち（宮史郎とびんからトリオ）

作詞 宮四郎・作曲 並木ひろし

二位 女のねがい（宮史郎とびんからトリオ）

作詞・作曲 並木ひろし

三位 学生街の喫茶店（ガロ）

作詞 山上道夫・作曲 すぎやまこういち

四位 喝采（ちあきなおみ）

作詞 吉田旺・作曲 中村泰士

五位 危険なふたり（沢田研二）

〈一九八三年〉

作詞 安井かずみ・作曲 加瀬邦彦

一位 さざんかの宿(大川栄策)

作詞 吉岡治・作曲 市川昭介

二位 矢切の渡し(細川たかし)

作詞 石本美由起・作曲 船村徹

三位 めだかの兄妹(わらべ)

作詞 荒木とよひさ・作曲 三木たかし

四位 探偵物語(薬師丸ひろ子)

作詞 松本隆・作曲 大瀧詠一

五位 氷雨(佳山明生)

作詞・作曲 とまりれん

〈一九九三年〉

一位 YAH YAH YAH(CHAGE&ASKA)

作詞・作曲 飛鳥涼

二位 愛のままにわがままに僕は君だけを傷つけない(B,z)

作詞 稲葉浩志・作曲 松本孝弘

三位 ロード(THE虎舞龍)

作詞・作曲 高橋ジョージ

四位 エロティカ・セブン(サザン・オールスターズ)

作詞・作曲 桑田佳祐

五位 裸足の女神(B,z)

作詞 稲葉浩志・作曲 松本孝弘

〈二〇〇三年〉

一位 世界に一つだけの花(SMAP)

作詞・作曲 槇原敬之

二位 虹(福山雅治)

作詞・作曲 福山雅治

三位 COLORS(宇多田ヒカル)

作詞・作曲 U t a d a H i k a r u

四位 さくら(独唱)(森山直太朗)

作詞 森山直太朗 御徒町風・作曲 森山直太朗

五位 月のしずく(RUI(柴咲コウ))

作詞 S a t o m i・作曲 松本良喜

四 結果

調査結果を以下の「表1」から「表4」にまとめた。

〔表1〕 楽曲別 歌詞の文節数

年	順位	曲 名	文節数	年平均
1973	1	女のみち	48	73.4
1973	2	女のねがい	47	
1973	3	学生街の喫茶店	113	
1973	4	喝采	71	
1973	5	危険なふたり	88	
1983	1	さざんかの宿	59	84.8
1983	2	矢切の渡し	64	
1983	3	めだかの兄妹	112	
1983	4	探偵物語	88	
1983	5	氷雨	101	
1993	1	Y A H Y A H Y A H	179	128.6
1993	2	愛のままにわがままに僕は君だけを傷つけない	99	
1993	3	ロード	142	
1993	4	エロティカ・セブン	116	
1993	5	裸足の女神	107	
2003	1	世界に一つだけの花	131	111.0
2003	2	虹	123	
2003	3	C O L O R S	99	
2003	4	さくら（独唱）	101	
2003	5	月のしずく	101	
全体平均				99.5

〔表2〕 楽曲別 品詞類別

年	順位	曲 名	文節数	体	用	相	他	体	用	相	他
				延べ数				%			
1973	1	女のみち	48	26	14	7	1	54	29	15	2
1973	2	女のねがい	47	22	20	5	0	47	43	11	0
1973	3	学生街の喫茶店	113	57	38	17	1	50	34	15	1
1973	4	喝采	71	40	22	9	0	56	31	13	0
1973	5	危険なふたり	88	40	26	11	11	45	30	13	13
1983	1	さざんかの宿	59	34	17	5	3	58	29	8	5
1983	2	矢切の渡し	64	24	21	1	18	38	33	2	28
1983	3	めだかの兄妹	112	25	18	12	57	22	16	11	51
1983	4	探偵物語	88	31	21	15	21	35	24	17	24
1983	5	氷雨	101	38	36	24	3	38	36	24	3
1993	1	Y A H Y A H Y A H	179	43	37	21	78	24	21	12	44
1993	2	愛のままにわがままに僕は君だけを傷つけない	99	44	34	18	3	44	34	18	3
1993	3	ロード	142	84	37	18	3	59	26	13	2
1993	4	エロティカ・セブン	116	70	25	21	0	60	22	18	0
1993	5	裸足の女神	107	45	32	20	10	42	30	19	9
2003	1	世界に一つだけの花	131	62	31	26	12	47	24	20	9
2003	2	虹	123	65	35	20	3	53	28	16	2
2003	3	COLORS	99	60	27	12	0	61	27	12	0
2003	4	さくら（独唱）	101	50	33	13	5	50	33	13	5
2003	5	月のしずく	101	56	25	7	13	55	25	7	13

〔表3〕 年別 品詞類別

年	体	用	相	他	体	用	相	他
	延べ数				%			
1973	185	120	49	13	50	33	13	4
1983	152	113	57	102	36	27	13	24
1993	286	165	98	94	44	26	15	15
2003	293	151	78	33	53	27	14	6

[表4] 楽曲別 人称詞

			一人称							二人称				
			僕ら	僕	自分	私	我	俺	わたし	あたし	君	あなた	アナタ	YOU
1973	1	女のみち	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0
1973	2	女のねがい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
1973	3	学生街の喫茶店	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0
1973	4	喝采	0	0	0	4	0	0	2	0	0	0	1	0
1973	5	危険なふたり	0	2	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0
1983	1	さざんかの宿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
1983	2	矢切の渡し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1983	3	めだかの兄妹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1983	4	探偵物語	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
1983	5	氷雨	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0
1993	1	Y A H Y A H Y A H	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1993	2	愛のままだにわがままに僕は君だけを傷つけない	0	8	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0
1993	3	ロード	0	0	0	0	0	3	0	0	2	0	0	0
1993	4	エロティカ・セブン	0	0	0	6	2	0	0	0	2	0	0	0
1993	5	裸足の女神	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1
2003	1	世界に一つだけの花	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2003	2	虹	0	9	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
2003	3	C O L O R S	1	0	1	1	0	0	0	0	2	2	0	0
2003	4	さくら（独唱）	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
2003	5	月のしずく	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ例数			6	20	2	16	2	3	2	1	31	14	1	1
作品数			3	4	2	6	1	1	1	1	8	7	1	1

五 考察・まとめ

五・一 文節数

「表1」を見ると、楽曲ごとの文節数は年々増加傾向にある。楽曲の長さとの関係を押さえないければならないが、年と共に歌詞が饒舌になるといえよう。

一九九三年が特に多いのは、『YAH YAH YAH』の歌詞にある「YAH」と、『ロード』の同フレーズの繰り返しによるものである。また、一九八三年の『めだかの兄妹』の文節数が多いのは、「チュン、ニャン、スイ」の擬声語や擬態語によるものである。

五・二 品詞類別

「表2」「表3」を見ると、楽曲別では、体・用・相の割合（延べ語数）にばらつきが大きい。年ごとにまとめると大きな変動はないことに気がつく。各年とも、体の割合は三六～五三%と増減するが、用は二六～三三%（七三年を除くと二六～二七%）、相は一三～一五%で安定している。

なお、一九八三年のその他の分類が多いのは、先ほども述べたように『めだかの兄妹』の「チュン、ニャン、スイ」の擬声語や擬態語によるものである。

五・三 人称詞

「表4」を見て、人称詞の使われ方が年々変化していることがわかる。まず、一人称と二人称の対応が「私・僕とあなた」から「僕と君」になっている。一人称にはさほど変化は見られないが、二人称の使われ方が

「あなた」から「君」に変化しているのである。

一人称と二人称のうち片方しか使われていない曲もあった。『YAH YAH YAH』は一人称しか使われていないのに対して、『女のねがい』『学生街の喫茶店』『さざんかの宿』『裸足の女神』は二人称しか使われていない。

次に単数・複数形について着目してみると、「僕ら」という複数を表す一人称があるのに対して、「あなたたち」などの二人称が使われていないことも、この「表4」から読み取れる。

今回の研究から、各年の楽曲に対するおおまかな傾向はわかったが、調査対象が少ないので、さらに正確なデータを取るには、もっと多くの楽曲を調査する必要がある。また、他のジャンルの作品と比較してみることからも、新たな発見が得られるかもしれない。